

浅野誠 旅・お出かけシリーズ6

沖縄各地

2013－2018年

「浅野誠 旅・お出かけシリーズ5 沖縄各地2010－2013年」の続編だ。沖縄各地は訪問先が蓄積するにつれ、訪問頻度が下がってきた。ということで、今回は5年分をまとめて掲載する。

訪問先も、再訪が多くなった。その続編は、10年分の一挙掲載ということになるかもしれない。

2018年11月発行

目次

※ ブログ掲載順に配列してある。

伊江島訪問	2018年04月05日
結婚記念日の習慣となった洋蘭博覧会見学	2018年02月09日
中城護佐丸歴史資料図書館・吉の浦会館・散策路	2018年02月05日
摩文仁平和記念公園 平和の光	2017年12月18日
洋ラン博覧会	2017年02月10日
西原中央公民館・公民館祭り 西原散策	2016年03月03日
八重山調査旅行3 竹富島	2016年02月06日
八重山調査旅行2 戦後開拓地めぐり	2016年02月04日
八重山調査旅行1 45年ぶりの再会	2016年02月01日
歩っちまーらな ぐしちゃんむら	2016年01月19日
うちなーファーム（糸満観光農園）の動物たちとイルミネーション	2015年12月30日
ブーゲンビリアで美しく囲まれる家 北中城大城・荻道の「ふるさとのみち」 中村家住宅	2015年12月28日
八重瀬のまち歩き 謝花昇ゆかりの地を歩く	2015年12月14日
港川集落を歩く 港川フィッシャー遺跡を見る	2015年11月29日
具志頭ホロホローの森散策	2015年11月17日
浦添散策 伊波普猷の墓	2015年04月05日
小川京子さんのスタジオ「ゆい」 ベイ・ブリーズ 与那覇前浜 宮古旅3	2015年04月02日
東平安名岬 島尻のマングローブ林 池間島北部海岸 宮古旅2	2015年03月31日
伊良部大橋 伊良部島 宮古旅1	2015年03月30日
洋蘭博覧会 結婚満43年記念	2015年02月10日
大石林山 アスムイ	2015年01月12日
奥武島いまいゆ市場 南風原文化センター	2014年11月02日
学校風景 環境協力税 伊平屋・伊是名旅4	2014年09月21日
伊是名島 朝日 福木並木 神アシャギ 鳥瞰 伊平屋・伊是名旅3	2014年09月20日
クマヤ洞窟 念頭平松 屋蔵墓など 伊平屋・伊是名旅2	2014年09月18日
久しぶりの？ 初めての？パック団体ツアー 伊平屋・伊是名旅1	2014年09月16日
東平安名岬 宮古旅5（最終回）	2014年09月03日
宮古馬 ドイツ村 水中観光船 宮古旅4	2014年08月31日
池間島北岸 宮古旅3	2014年08月30日

平良綾道マップ（歴史・文化ロード）を歩く 宮古旅2	2014年08月29日
マンゴー農園 博物館 植物園 宮古旅1	2014年08月27日
首里城周辺散策	2014年02月23日
東風平の古民家「懐かしい音楽と食事の店 言 GEN」	2014年02月19日
古宇利オーシャンタワーから見る景観	2014年02月12日
ステキなランのオンパレード 沖縄国際洋蘭博覧会2	2014年02月11日
3年連続で沖縄国際洋蘭博覧会を見る 1	2014年02月08日
沖縄の自然を守り育てるマングローブEEクラブ	2014年01月25日
宮城島からみる太平洋と沖縄島	2013年08月20日
元伊計小中学校風景 超かわいい門柱シーサー	2013年08月19日
イチハナリアートプロジェクト	2013年08月16日
那覇市歴史博物館	2013年08月14日
糸満漁民食堂	2013年08月11日
等身大人形「勝連のおばあ」 話しかけるのが好きな私	2013年08月05日
勝連城跡から、360度の沖縄島・海を見渡す	2013年08月04日
30年近くぶりの東南植物楽園訪問	2013年08月02日
勝連城跡訪問	2013年08月01日

伊江島訪問

2018年04月05日

突然思い立って、二人で伊江島にお出かけ。2組の親しい伊江島在住のかたに連絡をして、いろいろと面倒を見てもらう。私は3度目か、4度目かの訪問。前は5、6年前、伊江島の西小学校でワークショップ型授業をした。

今回は、特別な仕事も予定もなしだが、いろいろな出会いを楽しむ。

- 1) わじー（湧出） ニャティヤ洞（千人洞） 海岸散策など 歴史と自然が織り交じった物語と美しさ
- 2) いろいろな島おこしが目に付く 農業（牛 タバコ サトウキビ 野菜など） 観光 生き生きしているものを感じる
- 3) 軍事 団結道場を訪問した途端に、米軍のパラシュート降下訓練に出会う。海岸散策では、水面から10～20メートルという超低空飛行をする米軍機が目前を飛ぶ
- 4) 活気あふれる学校教師たち。楽しい小学生。一年ぶりに再会した小学生親子に島めぐりの案内をしてもらう。立派なホテルに泊めていただく。ホテル従業員も、沖縄本島出身の若者が多い。南城市出身者もいる。
- 5) 日程も、迎えてくれた方々に合わせる。いろいろと忙しい中、快く迎えてくださった。初めての人も楽

しく印象
的な出会
いがたく
さん。
感謝感謝
だ



右写真 ワジー

左写真 バス停 団結道場前

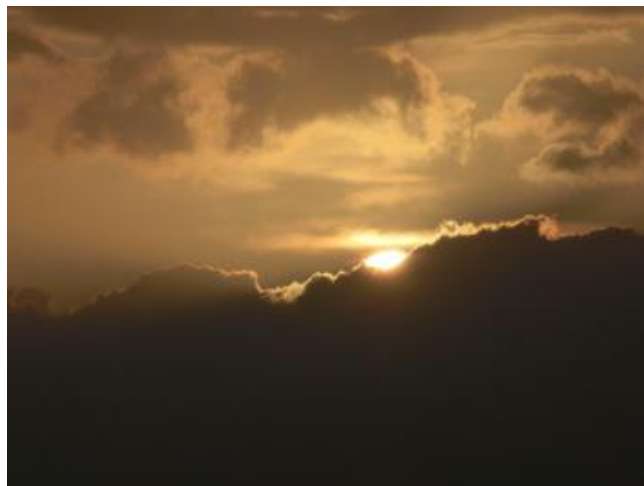
下左写真 米軍のパラシュート降下訓練 数人のパラシュートが写っている

下右写真 千人洞





上左写真 千人洞入り口から海を見る



上右写真 朝陽 対岸の美ら海水族館あたりの上から日の出

結婚記念日の習慣となった洋蘭博覧会見学

2018年02月09日

2月5日は、私たちの結婚記念日だ。満46年だから47周年ということだろう。数年前から、この日前後に、海洋博記念公園で開かれる洋蘭博覧会に出かけている。今年も6日にでかけた。

回数を重ねると、毎年印象に残るものが変わっていく。派手なものより地味なものに眼が移っていく。

今年は、ガイドツアーをお願いした。元職員で、長年、ここで蘭育てをされてきた方の話を聞いた。一番印象に残ったことは、香りの強い花は、花期が短く、弱い花は長いということだ。体験的にいって、なるほどと思う。

毎年、帰りに何株か購入して、我が家に飾ったり、植えたりする。今年は、ガイドのかたに、地植えできるパフィオペディラムを紹介していただいたので、購入した。他に紫蘭と初出会いのハーブ「アロマティカス」を買った。





恵美子は胡蝶蘭を買って、部屋に飾り、その前で「蘭瞑想」をしている。

知らぬ間の蘭との付き合いも広がってきた。我が庭の着生ランもいくつか蕾を着けている。寒さのため、開花が遅れている感じがするが、2月後半には開花するだろう。

中城護佐丸歴史資料図書館・吉の浦会館・散策路

2018年02月05日

吉の浦会館でもたれた学童クラブ指導員の研修ワークショップのために出かけた。1月上旬にも出かけたが、初めて行ったところで、吉の浦会館の向かいに中城護佐丸歴史資料図書館がある事に気付いた。その時は休館日だったので、第二回目の31日は、9時前に到着して、ワークショップ開始前に訪問しようと、勢い込んでかけた。すると、開館は10時からだった。残念。歴史資料室が整っているようで、開館そうこのころ、新聞で見たので、是非見たいと思ったというわけだ。また、次回にしよう。

でもここで働いている旧知の方がいるので、訪問して挨拶懇談した。仕事だったもので、早々に切り上げて、ワークショップ開始前まで付近の散策をした。吉の浦会館周辺は運動公園になっているし、散策路も整備されている。ちょうど、サッカーチームガンバ大阪のキャンプが始まる所だった。歩いていくと、すぐに海岸に出る。

なかなかいい所なので、次回、図書館と散策を兼ねてゆったりとした「お出かけ」にしようと思う。

このあたりは、今年になって初めての訪問だ。国道329は、これまで100回以上は通っているが、その海岸側は、初めてだ。吉の浦という、現代風の地名の印象をもったが、実はおもしろに歌われているとの掲示





があった。古い所なのだ。

運動場横の丘につくられた展望台からは、知念半島、中城湾、中城方向、琉球大学方向を見渡せる。

写真は、順に、中城護佐丸歴史資料図書館、吉の浦会館、(以下は、前ページ下) 知念半島、ナカグスク方向、ガンバ大阪がキャンプしている運動場

摩文仁平和記念公園 平和の光

2017年12月18日

16日午前、久しぶりに摩文仁に行く。特に訳があるわけではなく、突然思い立って、散策でもしようかということで出かける。

午前中は晴れていて、美しい。案内板を見ていたら、園内巡回の電気自動車の人から声をかけられて、乗車。初体験。ここの初訪問は、46年前。各県の慰霊の塔あたりは、そのころと大きな変化はないが、ガイドする運転手さんの話を聞くと、あらためて感じるどころが出てくる。

海岸近くの「平和の火」あたりで、韓国からの高校生一行と出会う。祈念資料館前には「韓国人慰霊塔」がある。一行は、その前からバスで移動していった。

公園の東側一帯は、初めて歩く。そこに展望台ができていた。公園一帯は、我が家から毎日見ている光景だ。逆に、公園の高い所からは我が家が見える。





平和祈念堂の東側には、森や「子供の広場」がある。大きく立派な遊具が多くて、子どもたちは喜びそうだ。親子連れでにぎわっていた。

夜になると、摩文仁の公園からの「平和の光」が夜空に向かって光る。毎年、我が家からも見えるが、カメラ撮影は難しい。16日から始まるとのことだ。隣の糸満観光農園のイルミネーションも16日スタートのようだ。

洋ラン博覧会

2017年02月10日

6日は、PM2.5が今年の最高で、外出を控えた。ベランダに出る時もマスクをして、鼻口からの流入は抑えられるが、目がチカチカするのは防ぎようがない。

7日も心配だったが、幸いうんと減って、予定通り、海洋博記念公園で開催中の洋蘭博覧会に、二人で出かけた。この4、5年は、毎年結婚記念日に合



わせて出かけているから、洋蘭博ベテランになってきた。

演出が、やや地味になり、「玄人受け」の雰囲気になった。といっても、私たちは蘭については素人なのでよくわからないが。

午後1時過ぎということもあって、団体観光客でにぎわっていた。いつも、蘭たちに圧倒されて、写真を撮りまくっていたが、今年は印象に残るものを重点的にとった。



会場内にあるカフェで、月桃のデザートをいただく。見学終了後は、例年通り、蘭の苗を何株か購入する。こんな風にして、我が庭畑の蘭が増えていく。今年は、バンダ、レモンライム、マメヅタカズラを買った。恵美子は、エピランドラムを買う。バンダは難しいが、初挑戦だ。これで、我が家の蘭も10種類以上になっていると思う。



帰路、八重岳の桜を見る。桜祭りは終わったが、まだ十分楽しめる。

夕方6時に帰宅。疲れは少ない。10年前までは、山原まで出かけるとぐったりと疲れていたから、ずいぶん元気になったものだと思う。



西原中央公民館・公民館祭り 西原散策

2016年03月03日

27・28日に開かれた西原中央公民館祭りに、28日午後出かけた。同公民館の運営審議会の委員をしているからだし、かつての西原町民だからでもある。

タイトルも面白い。

「学びから 喜び 広がる 地域の絆 ～笑いなさい 楽しみなさい 羽ばたきなさい～」

39もある公民館サークルが、30余りの舞台発表・ダンス発表・展示発表を行い、大きな賑わいを見せ





ていた。活気というか、エネルギーというか、そんなものに包まれてしまった。

舞台発表などは、子どもからベテランまで、歌・ダンス・日舞・フラ・指笛・・・と多種多様だ。

西原の賑わいを反映しているようだ。

祭りを味わった後で、近辺を散策し、かつて我が家があった小波津団地まで歩いた。

写真は、西原時代の我が家

あたりは、ここに住んでいた30年まえとは全く異なった姿だ。かつては一面のサトウキビ畑が、いまでは住宅・道路、加えて町役場・小学校・保育園などが立ち並ぶ。道がわからなくなってしまうほどだった。



毎年通う沖縄国際洋蘭博覧会 海洋博公園

2016年02月05日

何年前だか訪問して、好印象だったので、ここ数年は毎年訪問している。

合わせて八重岳の桜見物もすることがあるが、今年は曇り空なので行かなかった。

毎年、微妙に展示が異なり、新鮮さを覚える。今年は、一輪一輪に興味をもって、写真撮影もした。

帰りにランの花や苗を購入して、自宅庭で楽しむのも、毎年のことだ。最近では、木の枝別れしたところに水





苔を使って育てる「着生」に興味を覚えて挑戦している。今年は、7苗購入して植えてみた。トキソウというのでも購入して、植えた。

八重山調査旅行3 竹富島 2016年02月06日

(4日の続き)

最終日午後は、竹富島訪問。30年ぶりぐらいか。前회가いつだったか、思い出せないほどだ。全体的に変わりはないが、港から集落への道が「立派な」道路になっていたことと、港近くに「竹富ゆがふ館」ができていたことが違う。

その「ゆがふ館」で、島についての説明を担当者からいただいた。島についてコンパクトにまとまった話だった。

私は、数年前、放送大学のビデオ教材作成に協力し、移住・UターンIターンなどをめぐっての話で「解説」風の話をした。撮影場所は、我が家屋上だった。そのビデオの主内容は竹富島だったが、その時に今回の説明役の方も出演しておられたとのこと。奇遇だ。

ずっと竹富に住んでおられた人だけでなく、UターンIターンの人も、竹富の保全と発展で活躍しておられる。私流にいうと、「手作り島起こし」の先輩格として、竹富がある。

説明の後、島のなかを歩きまわった。観光客がとても多いところだが、住民の手で、島を守っていることを



印象づけるものが、あちこちに見られる。

右写真
世持御
嶽 島行





事が行われる

付けたりだが、石垣での食堂でいただいた「お年寄りゆしどうふセット」は、なかなかいい。350円で、ゆしどうふ、おから、豆乳、卵焼き、ご飯・・・といっぱいだ。

八重山調査旅行2 戦後開拓地めぐり

2016年02月04日

(1日記事の続き)

2日目と3日目午前は、裏石垣といわれる地域を中心に戦後開拓地をめぐった。裏石垣地域は、かつてマラリアの発生が多い地域だった。近世期にも強制移住があり、その悲劇を象徴する野底マーペーの物語はよく知られている。戦前も日本政府・日本軍による移住策が悲劇を生んだ。

戦後も、読谷村をはじめとする沖縄本島などにおける基地建設で自分たちの土地を失った人々への対処策として、米軍は移民を打ち出した。その中心的な一つが裏石垣地域への移住だった。米軍は、マラリアを媒介する蚊の撲滅作戦をして移住策を推進していった。



しかし、ある地域では、団長がマラリアで死ぬとか、開拓地が荒地だとか、道路整備されないなど、困難をきわめた。

そんななか、開拓民の必死の努力が続けられた。しかし、断念する人も多かった。そんななか、米軍の放送局長を務めていた川平朝申は、みずから開拓地をまわって、その実況を放送したのだ。

それらの地域は、紆余曲折がありながらも、今なお踏ん張っておられる方もいるし、困難ななか、人口減に直面している地域もある。

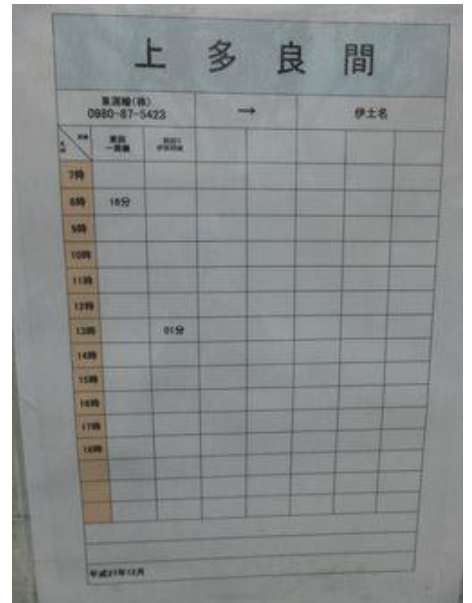
私たちが回った地域の名を記しておこう。

吉原 米原 富野 多良間 栄 明石 平久保



伊原間 伊野
田 星野 名
蔵

名蔵は、パイナップル栽培のための戦前台湾からの移民からの歴史もある。川平朝申は、戦前台湾で活躍していた。



た。名蔵では戦後、沖縄県内からの移民も加わった。

その名蔵小中学校はちょうど学習発表会で、小学生が戦前からの移民の歴史を劇にして発表したもので、それも拝見した。上左写真



前ページ中右写真 吉原 宮古から移民

前ページ下左写真 米原

上右写真 バス停 一日一往復のダイヤ

中左写真 明石 ここには私が現在住む玉城から移住した人もいる

中右写真 星野 写真は水源地に建てられた碑

右写真 台湾からの戦前移民がパイナップル工場を建てたところ。



八重山調査旅行1 45年ぶりの再会 2016年02月01日

29～31日と、私を含めた11名で、八重山調査旅行にでかけた。戦前戦後の沖縄と台湾で活躍した川平朝申についての研究の一環だ。彼が八重山と深い関係をもっていたこと、とくに裏石垣地域への戦後移民のラジオ報道は彼がした移民地視察が焦点の一つだ。それらについては次回報告しよう。

29日夕方着いたが、時間があつたので、数年前から石垣で生活している旧知のご夫妻と再会した。45年ぶりだったが、双方とも、すぐに相手を認識できた。大学院生時代のつきあいで、ご夫妻の結婚式の司会を私がしたという縁もある。

彼の専門が天文学？地球物理学？で、石垣に大型の観測施設を設置する事業にかかわった縁で、退職後、石垣で生活しておられる。星の同好会、楽器演奏、食品の放射能汚染測定活動、自衛隊配備問題と、ご夫妻で多面的に活躍なされている。



こうした再会は楽しいものだ。でも、昔話はそんなにせずに、今何をしている、これから何をやる、という話を中心になる。

この年齢になると、こんな再会が、年に何回かある。楽しいことだ。

左写真 案内していただいたバナナ岳の展望台から北方向を見る。左手の名蔵方向に水田が見える。

右写真 31日訪問した名蔵ダムから観測施設方向を見る。VERA 石垣島観測局というのだそうだ。岩手・鹿児島・石垣を結んで、口径2000キロ余りの電波望遠鏡になるのだという説明を聞いたが、壮大過ぎて、私には訳のわからない世界だ。10分ぐらいしたら、望遠鏡が大きく方向転換していた。





歩っちまーらな ぐしちゃんむら

2016年01月19日

16日午前、「八重瀬のまち歩き」のなかの「歩っちまーらな ぐしちゃんむら」に参加した。これで、5つあるコースのなかの4つに参加したことになる。



八重瀬町字具志頭を

まわるコースだ。国道331号線沿いのこのあたりはよく通るし、具志頭グスクなど他用でも出かけたことがあるので、なじみのある集落だが、ガイドの話を聴くと、改めての発見が多い。



上左 国道沿いの福木並木。樹齢何百年もなり、すごく太い。かつての屋敷林が、いまは街路樹の役割を果たしている。

上右 屋敷の石敢當 歴史を感じる逸物だ。

中左 汗水節の碑 具志頭のシンボルになっている歌だ。

下左 ハナンダー 集落の中央を流れる白水川に、自然にできた橋

かつての鍾乳洞が変化したもの

下右 12月まで八重瀬町役場だった建物の前の二股ガジマル。かつて具志頭中学がここにあり、昭和23年第一期卒業生が、山中から二股ガジマルを見つけ出し、ここに卒業記念植樹をしたとのこと。





うちなーファーム（糸満観光農園）の動物たちとイルミネーション

2015年12月30日

28日夕方、うちなーファームに出かける。2年に一回ぐらいでかけている。糸満観光農園は、今年経営者が変わり、うちなーファームという名になった。近所の人がここで働いている縁もあり、新たな気分が入



る。
動物たちが可愛い。特に目がいい。
牛は、これから乳しぼり



につれていく所だそう。ここで働く人たちは、話しかけると、親切に丁寧に応えてくれる。

6時からはイルミネーション。毎回、美しさにとれる。





ブーゲンビリアで美しく囲まれる家 北中城
大城・荻道の「ふるさとのみち」 中村家住宅
2015年12月28日

26日、北中城に出かける。最近再会した、40年前の西原の知人たちとまたの出会いだ。40年前、同じ保育園に子どもたちを通わせた親同士のつきあいだ。昔話もするが、今の話が多い。意外に「今」のつながりをたくさん発見。沖縄では、いろんなつながりが「つる」のようにからみあう。

食事を楽しんだ後、友人宅訪問。

30年以上のブーゲンビリアの巨木。家をぐるっと取り巻く。20年近く前に、県知事賞をもらったそうだ。

その

後、中村家住宅（左下写真）。彼がここでボランティアガイドをしている。説明を聞く。ここの訪問は40年ぶり。すっかり忘れていた。



その後、大城・荻道の「ふるさとのみち」を歩く。花で美しく飾るシマ道ということで、いろいろと話題になったところだ。道沿いにランを飾る。すごい量だ。あちこちが美しく整備されている。右下写真。

偶然の話。中村家でいっしょに説明を受けた初対面の人が、「UBC」のロゴの入った服を着ておられるので、尋ねてみたら、やはりそうだった。ブリティッシュコロンビア大学で長期にわたって教えておられたとのこと。そして、またしても偶然、現在は、かつての私たちと同じ愛知県のごく近くにお住まいということだ。沖縄だけでなく、世界どこでも歩けば、つながりが見つかるというものだ。



八重瀬のまち歩き 謝花昇ゆかりの地を歩く 2015年12月14日

12日午前、八重瀬のまち歩き「謝花昇ゆかりの地を歩く」に参加。八重瀬のまち歩きは、これで三つ目だ。今回は、東風平集落を回ったのだが、大きな集落なので、3時間の長丁場となった。

東風平は何といっても謝花昇ということだ。尋ねた地もほとんどが謝花ゆかりのところだ。

まずは銅像。設置場所がいくつか移動して、謝花が日常的に見ていた八重瀬岳がよく見えるこの場に落ちついたそうだ。戦争期には、銅像が供出されたとのこと。

銅像の前で、詩吟の会が、謝花にかかわる詩を吟詠。琉歌を吟詠するのを初めて聴く。右端は、ガイドの金城さん。かれも詩吟の会員だそうだ。



下左写真 公民館前の広場は、かつての馬場跡。このあたりは謝花の生家、番所跡、郡役所跡、義村御殿跡などと謝花ゆかりの地の目白押し。

東風平小学校跡もそうだ





コースの最後は、軽便鉄道東風平駅跡。線路跡が道路になっているのは、稲嶺駅近くと同じだろう。近くには、戦後にぎわった東風平劇場跡もあった。

こうしたコースへの参加は楽しい。地域自慢が聞けるのもよい。参加者の年齢層は比較的高いが、20代30代の方々の参加がもっと増えるとよいだろう。

港川集落を歩く 港川フィッシャー遺跡を見る

2015年11月29日

28日午前、八重瀬町ガイドの会による「八重瀬のまち歩き」の「港川集落を歩く」に参加。

11月14日「ホローホローの森の植物」に引き続いて参加。いつも通りすぎるだけの港川集落と港川原人発見の港川フィッシャー遺跡を見たいと思つてのことだ。

今回は、ガイドの方を含めて10名ほど。前は男性参加者は私一人だったが、今回は男女半々。前回、顔なじみになったかたが一人おられた。

ここでのキーワードは、漁港、栗石採掘、港川原人だ。



中右写真 栗石採掘後の海岸

下左写真 南の御嶽

下右写真 屋根シーサー





上左写真 栗石通り 集落のあちこちに栗石が使われている。栗石景気で、とても賑わった商店街があったそうだ。隣の南城市堀川もそうだ。堀川では、今でも採石がされている。

上右写真 港川フィッシャー遺跡 現在は、こんな機会にしか入れないそうだが、近く整備して公園をつくり、入りやすくするとのことだ。



左写真 港川漁港

具志頭ホロホローの森散策 2015年11月17日

この時期、魅力的な企画満載でどこに行くか迷う。

まず14日午前、八重瀬町ガイドの会主催「ホロホローの森の散策と植物観察会」に出かける。糸満の道の駅で見つけたチラシで申し込む。南城市内はすべて回ったので、隣接町村を回ろうということがきっかけだ。しかも、我が家から毎日見ている地域だ。ホロホローは、ヤブニッケイのこの地域での名前。

朝は豪雨で、実施するか気になったが、集



合場所の具志頭改善センターに行けば、時間に予約者が集合しており、私が最後だった。私以外は女性8名で、ガイドは女性2名男性1名だ。多多名グスクの入り口から森に入り、具志頭海岸までの600メートルの森の散策路だ。短い上ったり下ったりだし、途中でのみっちりの植物説明で2時間の散策だった。

植生は、我が家周辺とほとんど同じで、見たことのあるものばかりだが、名前や特徴を知らないものの続出だ。トウツルモドキなどは、いつも見ているが、名前と実物が始めて一致したし、葉先が蔓役？を果たす独特の形を知った。オオバギのウチナーグチ名チビカタマヤー、カニクサのウチナーグチ名ヒージャークルバサーは、とても面白い。

海岸線は、以前にもきたことがあるが、興味深い説明があり、このあたりはまた訪問したいと思う。他にいくつものコースが隔週のペースで用意されている。参加したいと思う。



浦添散策 伊波普猷の墓

2015年04月05日

3月下旬沖展のついでに浦添城址公園までの往復散策。写真は、伊波普猷の墓。

小川京子さんのスタジオ「ゆい」 ベイ・ブリーズ 与那覇前浜 宮古旅3

2015年04月02日

31日の続き

自然景観を味わっただけではない。長年の友人でクバアート作家の小川京子さんのスタジオ「ゆい」の訪問。

そして、これまた長い付き合いになっている児童養護施設「漲水学園」の訪問。





親戚にもたくさん会う。

ホテルでは、家族会話が続く。

宿泊先は、ベイ・ブリーズ・ホテル（上左写真）。飛行機・レンタカーのパック料金で格安。写真中央の浅瀬にドイツ商船が座礁して住民が救助にあたった歴史的な場所



上右写真 定番の与那覇前浜

左写真は、そこで恵美子が拾って、ふくろう収集趣味の私にプレゼントしてくれた、珊瑚石に偶然あいた2つの穴が、ふくろうの目にそっくり

東平安名岬 島尻のマングローブ林 池間島北
部海岸 宮古旅2 2015年03月31日



左写真 東平安名岬から保良漁港方向を見る。

右写真 東平安名岬海岸



東平安名岬に群生するハマウド。最初これ何だかわからず、長命草(ボタンボウフウ)の仲間のハマボウフウかなと思った。掲示があって、ハマウドであることがわかった。



中左 島尻のマングローブ林

中右写真は、そこで出会った蟹。名前を調べてみたが、素人には難しい。



池間島北部海岸。昨年訪問の時、偶然見つけた美しい海岸。この日は他に誰もいなかった。

こうした「穴場」があるのが、宮古だ。

伊良部大橋 伊良部島 宮古旅1

2015年03月30日

27日から3日間、3世代で宮古島に出かけた。伊良部大橋完成がきっかけ。孫たちは初めて。長男は赤ちゃんの時に行ってはいる。

私は、20回目ぐらいか。道もだいたいわかる。親戚や仏前挨拶もかねての旅。

孫たちは、海に夢中なので、海を中心にまわる。伊良部大橋をとって、伊良部島下地島を一周。



中右写真 通り池。最初に訪問した40数年前は、草むらを長々とあるいてたどり着き、柵などもなく、こごわ腹ばいで見た。が、今は楽々訪問。



下地島のパイロット訓練場は継続できるかどうかで話題を呼んでいる。下左写真は北端の進入路。

孫たちは、砂浜遊びが大好きだ。



洋蘭博覧会 結婚満43年記念

2015年02月10日

私たちは、2月5日で結婚満43年になる。ここ何年か、それを記念して二人で海洋博公園熱帯ドリームセンターでこの時期に開かれる沖縄国際洋蘭博覧会に出かけている。

あまりにももの美しさに魅せられたからだ。

今年もすごかった。同世代、ないしはそれ以上のカップルが多いのも特徴だ。会場でとても素敵な先輩夫婦にカメラのボタン押しを頼まれたが、その際、失礼ながらお年を聴いてしまった。「昭和4年生まれです」と笑顔で返された。こんな出会いもある。

「愛のメッセージ」を書いて貼り付ける会場、コサージュ作り教室もあって、参加した。初体験だ。何故か、主催者のカメラマンの撮影もされてしまった。

とても寒い日で、今年初めてコートを着ての外出だったが、満足の日だった。



大石林山 アスムイ 2015年01月12日

11日、恵美子と近隣の方たちと一緒に、本島北端の大石林山、アスムイに出かける。もともとは、アスムイ（安須杜）で、沖縄で重要な聖地の一つだ。北から沖縄へと船旅をするときに、最初に目につく岩山だ。

石灰岩のカルスト地形であり、奇岩の類が多く、観光地化したのが大石林山だ。しばし前は別の名前で、近年、この名前になったようだ。

私は、6年余り前に一人旅で訪問し、その後も



どなたかを案内して一回訪問している。ということで、私が案内人になって、みなさんをお連れした。往復260^{km}の長距離



運転を日帰りするのは久しぶりのことだ。沖縄本島の南端の我が家から北端までの「旅」だ。



幸い天候に恵まれた。訪問者は結構多いが、沖縄外からの観光客がほとんどのようだ。私の最初の訪問時の数倍~10倍という印象だ。パワースポットで話題を集めていることもあるようで、観光地として定着していそうだ。岩山であるが、森の中も含めて、散策路として十分整備されている。整備されすぎかもしれない。

中右写真 このガジマルは巨大だ。

帰路は、辺戸岬と辺戸集落も訪問する。写真

は、辺戸集落から海岸寄りへ下りたところにあるクイナ展望台から見た辺戸岬だ。短時間だが、うっすらと与論島を見ることができた。

国頭と大宜味の二つ道の駅を訪問して、帰る。タンカンと大根を購入。私は、リュウキュウマツの板を購入。我が家の庭に腰かけるところをつくる算段だ。

奥武島いまいゆ市場 南風原文化センター 2014年11月02日

奥武島のなかの、我が家の正面にあたる所に新しい建物ができた。「奥武島いまいゆ市場」。中に入る店などが移転準備中だ。すでに漁協の看板などは掲げられているが、奥武島名物の刺身屋数軒、そして花野果村も移転するとのことだ。にぎわうことだろう。



南風原文化センターの展示の評判は聴いていたが、まだ訪問していなかった。31日初めて訪問。戦争時、とくに陸軍病院にかかわる展示がすごかった。摩文仁の平和祈念資料館やひめゆり記念館などと共に、出かけたところだ。市町村がこうした展示をしている点でも注目したい。合わせて、「沖縄陸軍病院南風原壕群」があるのだが、予約が必要とのこと、次の機会にしようと思う。

ついでに、いろいろなパンフレットをいただいた(右写真)。字ごとの案内パンフレットまで作られている。40年前に私たちが住んでいた新川のものをいただいた。40年前と比べると10倍の人口になっている。

伊是名島 朝日 福木並木 神アシャギ 鳥瞰 伊平屋・伊是名旅3 2014年09月20日

伊平屋島の最後は、野甫島の塩製造所見学。その後、渡し船で伊是名島にわたる。では伊是名の話いくつか

1) 伊平屋と対照的な地形。なぜか雰囲気も異なる。ここは観光者も多そうだ。

2) 伊是名に宿泊したが、何日も降雨なしだったのが、晩に雷を伴った大雨。おかげで星空観察ができなかった。翌朝、早起きして散策。朝日を見る。

昨晚の雨で洗われたのか、もともと空気がきれいなのか、美しい日の出を見られた。



3) ここでは、民宿の方たちがガイド。ベテランで超うまい。各地を回るが、話の半分は、尚円（北の松金）にまつわるもの。生誕地・逆田（早魃の時でも、彼の田が水をたたえているのを恨まれて、島を出たという話の場）などなど

4) 伊是名集落では銘苧家見学。私は、碁盤目集落の福木並木を見て回る。

神アシャギにも出会う 下左写真

5) 島全体、さらに伊平屋島まで鳥瞰できる森林公園の展望所。下右写真は北方向を写したもので、伊平屋も写っている。



6) 伊是名玉御殿

首里の玉御殿とペアのものだ。

いろいろなところを見て回ったが、比較的ゆったりと周るので、楽しめた。ともかく美しい景観が一杯だ。島起こしの宝が多いという印象だ。



クマヤ洞窟 念頭平松 屋蔵墓など 伊平屋・伊是名旅2

2014年09月18日

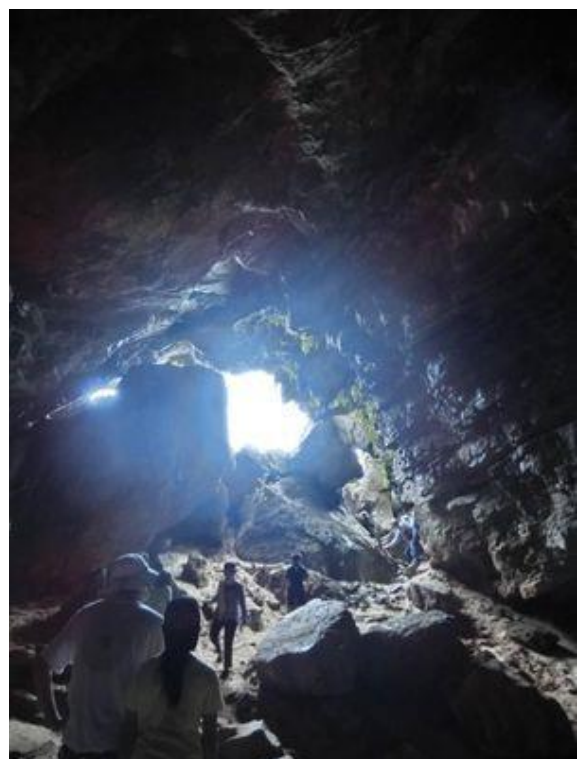
伊平屋に到着。港前のレストランで昼食。イセエビが出てくる。パック団体旅行は、食事もすべてお任せで出てくる。量が多い。体重が1キロ増加した。動物性タンパク質を2日間で、私の10日間分摂取。おかげで、逆流性食道炎対策の薬で胃酸なしの私の胃腸は怒りまくり状態が続く。家に帰って、野菜尽くしにきりかえて、胃腸がやっと落ち着く。

伊平屋内は、シマンチュの超ベテラン男性の案内で回る。伊平屋の事情をコミカルに話してくれて、拍手喝采が多い。いろいろと多難な島ようだ。

一番のメインは、クマヤ洞窟。中は薄暗いが、広い。ここは、いろいろなところで紹介されている。入口の明かりが漏れてくるのも、なかなか神秘的。



ここは、一人かせいぜい数名かで訪問して神秘的な雰囲気味わいたいが、訪問者が多くて、なかなか難しそうだ。





左写真 洞窟には、巨岩がのっかかっている。

右写真 念頭平松は、久米島の松に並ぶ巨大松だ。

右 屋蔵墓は、第一尚氏の先祖の墓だとの説があるが、いろいろな話があり、単純ではなさそうだ。

結構広い島だが、ひとけが少なく、まさに島チャビを感じる。島おこしをどう展開していくのだろうか。



久しぶりの？ 初めての？ パック団体ツアー 伊平屋・伊是名旅1 2014年09月16日

一泊2日で、伊平屋・伊是名旅に出かけてきた。気分転換に旅をしようかと思立ち、数日前の新聞広告で、ツアー募集を知り、参加した。

伊平屋は、25年ほど前にちょっとだけ訪問したことがある。伊是名は30年ほど前に、講演ででかけることになっていたが、台風で取りやめになった。知り合いがいたこともあって、いつか行くだらうとおもっていたが、結局行かずじまいだったので、この際行ってみよう、と決めた。

旅は、自分で切符を買って、宿泊をとり、スケジュールを決めるというのが、普通だった。20年前のカナダ西部旅行と、3年前のバリ旅行は、パックに乗ったが、自由時間が沢山あり、団体行動が少ないので、個人旅行に近いものだった。6年前に、近隣の方たちとでかけた台湾旅が、今回に近いものだろう。



中南部の主要地点で参加者をバスが拾っていくのだが、私たちは、パレット久茂地で乗車した。ほとんどが、夫婦・家族単位の参加で、個人参加は少しだった。私たちは、平均年齢より少し若いくらいだった。退職後、こうした旅行を楽しむ人が多いという話は聞いていたが、初めて実感した。

セットされた流れに乗っていけば、楽なものだ。自分で考えてセットする必要がないからだ。しかも、価格が安いし、自分で自動車運転する必要もない。今は現地に知り合いもいないので、こういう旅もいい。それに、こ

の企画はスケジュールがゆったりしているので、よかった。

運天港から伊平屋行の船に乗る。立派な船だ。部屋のなかはクーラーが効きすぎているので、甲板で、海・島を眺めて楽しんでいた。

運天出航直後、古宇利島を見る。上写真

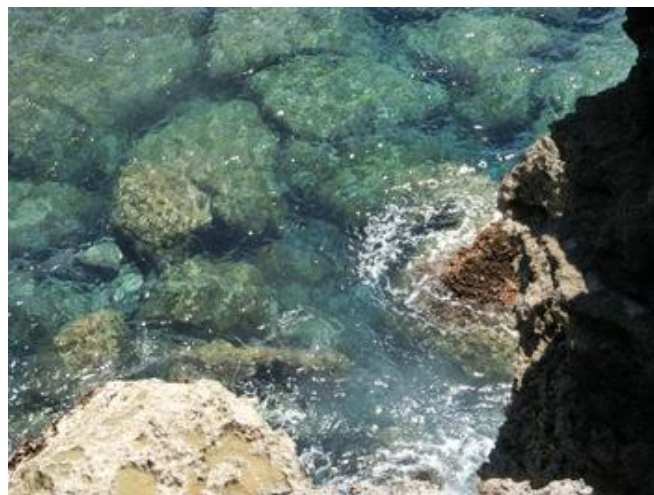


伊是名（左写真）・伊平屋（右写真）に近づく。

東平安名岬 宮古旅5（最終回）

2014年09月03日





東平安名岬訪問は、何回目だろうか。最初は、私の初めての沖縄・宮古訪問の1971年11月の時だ。8月の盛夏の景観は素晴らしい。

コメントはやめにして、写真掲載だけにしよう。



宮古馬 ドイツ村 水中観光船 宮古旅4

2014年08月31日

西平安名岬から戻る途中、宮古馬の牧場があり、写真撮影。最近は保存活動が盛んなようだ。

次に「うへのドイツ文化村」に行く。10年ぐらい前に訪問した時の賑わいは消えて、博愛記念館（マルクスブルグ城）とキンダーハウスの公開のみになっている。

この日は、天気がよく、景観が美しい。





近くにある水中観光船シースカイに乗船し、魚・珊瑚を見る。



池間島北岸 宮古旅3 2014年08月30日

池間島に行く。3年前にも来た。その時訪問した池間湿原を見るが、今はいい季節ではなさそうだ。途中の灯台の近くの道路わきに何台も自動車が止まっている。「なんだろう」と私たちも止める。海岸林の間をくぐり抜けて数メートルというところに、美しい海岸が見える。

急な崖を、ロープを伝いながら下りる。ゴミもない美しい海岸だ。





コメントは必要ないだろう。

30分ぐらい滞在して、自動車に戻る。そこで、びっくりのことが。



自動車のエンジンがかからない。いろいろと試みるが、うんともすんともない。仕方がないので、宮古の知人たちに電話相談。20分ぐらいして、持ち主から電話。時々かからない時があるとのことだ。その時のエンジンのかけ方の秘策を教わる。無事かかる。一時は「深刻」になった。



この後、池間大橋か

ら西平安名岬へと向かう。右写真は、西平安名岬から池間大橋方向の海を見る

平良綾道マップ（歴史・文化ロード）を歩く 宮古旅2

2014年08月29日

宮古博物館で、「平良綾道マップ（歴史・文化ロード）」という便利なガイドパンフレットをいただいた。市役所近くから歩いて29か所コースだ。全部歩けば、2時間余りかかるだろうが、今回は半分ほどにとどめた。歩いたことのある道だが、そういうスポットがあることを知らずにいたところも多い。以下に示すスポット番号は、パンフのなかの番号だ。訪問したところはすべて写真撮影したが、掲載は一部にとどめた。



1. 住屋 御嶽
市役所の隣。初訪問。平良の市街地には御嶽が結構ありそうだ。木々があるにしても、建物に囲まれているので、鬱蒼とした雰囲気は弱い。といっても、やはり御嶽は御嶽だ。左上写真



した雰囲気は弱い。といっても、やはり御嶽は御嶽だ。左上写真

2. ドイツ皇帝博愛記念碑

3. 貢布座跡

4. 観音堂経塚

5. 右上写真 祥雲寺と石垣 法事などで、訪問した経験がある。隣の宮古神社はスポットに入っていないが、今回訪問した。



6. 左写真

漲水石畳道 短いが、しっかりした石畳だ。

7. 蔵元跡 地図にしたがって歩くが、見つからなかった。

8. 右写真 漲水御嶽 宮古では大変重要な御嶽だ。



9. 仲宗根豊見親の墓 10. アトンマ墓 下左写真 二つが並んでいる。

11. 知利真良豊見親の墓

12. 恩河里之子親雲上の墓碑



(13~22は、今回訪問せず)

23. 仲屋金盛ミヤーカー

24. 忠導氏仲宗根家

25. 外間御嶽 (見つからず)

(26~28は、今回訪問せず)

1時間余りで4000歩ほど歩く。宮古の道は、初めて訪問した43年前とは大変化だ。アカヌケした感じだが、宮古らしくもないとも感じる。訪問個所については、宮古の歴史

に詳しくれば、さらに興味がわくだろう。学習が必要だ。

マンゴー農園 博物館 植物園 宮古旅1

2014年08月27日

21～23日の宮古旅は、久々に宮古のあちこちを見て回った。二度目以上の訪問がほとんどだが、夏の好天のなか、美しい景観を楽しむことができた。何回かにわたって紹介していこう。

まず宮原マンゴー園。中左写真

恵美子のいとこがやっている。我が畑のマンゴーが不作続きなので、ここで生まれたマンゴーを各地の知人に送っている。手入れがなかなか大変なマンゴーづくりだ。苦労話も聞いた。



続いて、博物館。中右写真。数年ぶりの訪問。虫の企画展があり、小学生たちがたくさん来ていた。最近発行された立派な「みやこの歴史」を購入。

博物館の隣にある植物園も久しぶりの訪問。左下写真

植物園の裏手に、山原の森ほど広大ではないが、宮古にもこんな立派な亜熱帯の森があるとは、と驚きだった。右下写真



ここでは、植物園だけでなく、体験工芸村があって、施設がいくつも作られていた。宮古織



に魅せられて、かりゆしウェアを購入してしまった。上布ほど高級でないとしても、私が購入する衣料品としては破格の高級品。なにせ手織りだから。その写真は、別の機会に紹介しよう。

面白い菓子作りにも出会う。おからを高級なフランス菓子風に作っている。宮古産の特産物として、目下売り出し中だ。

首里城周辺散策 2014年02月23日

参加した県立芸大での研究会の開始前に、首里城周辺散策をした。



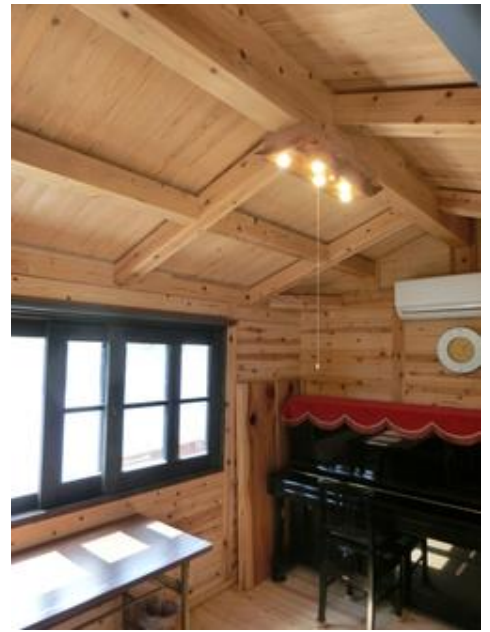
1973～1982年、現首里城の南殿あたりに当時の琉球大学教育学部棟があり、私の研究室もあった。また、1980年前後には、移転完了して空いた農学部棟に私の研究室が移った。その後がどうなっているか探してみようと思ったのだ。

旧農学部棟は、跡形ないだけでなく、どこに在ったかさえもわかりにくい。歩いて見ての推理だが、赤田門（左写真）として復元されたところか、城の裏手からの通路入り口近くだろう。その通路を上っていくと、かつて琉球大学と沖縄キリスト教短大とをつなぐ道があったところがとっても美しく整備されていると

ころに出た（下左写真）。そこから芸大の全貌（下右写真）を含んだ景観が美しい。芸大向けに少し歩くと、下方にかつての琉球大学グランド跡が見える。ここで、20代後半から30代前半の私は、スポーツをたくさんした。また、今は正殿前の御庭になっているところにあった教室で、学生卓球部の顧問をしながら、卓球練習をしたのも、35～40年前の話になってしまった。

このあたりの変わりように驚く。首里城は復元したが、かつての琉球大学の復元はどうするか、などという話は「冗談」に近いものとして扱われるのだろうか。





東風平の古民家「懐かしい音楽と食事の店 言 GEN」 2014年02月19日

18日、誘われて出掛ける。築50年の古民家。国道507の東風平小学校近くから、案内板に沿って1分ほどの集落の真ん中。

美味しい料理。私は魚汁。他にカレー、ピザなど。値段が安い。

一番は、庶民的な品を感じさせる風情があるところだ。「通」の女性が集まりそうな雰囲気。開店して7ヶ月。

20世紀初頭の蓄音機・蝋管蓄音機がある。今回は、それを使って鳴らせた音をCDにしたものが流れている。この機械は、手巻きで5分演奏というすごい年代物だ。博物館でしか見られないものが置かれている。

建物の前には、ログハウス。岐阜県産のキットを家族皆で組み立てたそう。夏涼しく冬温かく快適だとのこと。手づくりなので、安い。我が家でも作りたい気分になる。

写真は、店の建物全景（左）とログハウス内部（右）



古宇利オーシャンタワーから見る景観 2014年02月12日

7日、海洋博公園で、洋蘭博覧会を見た後、古宇利島訪問。昨年も同じコースをたどった。古宇利では、古宇利オーシャンタワーに立ち寄る。昨年11月にオープンしたばかりだ。すでに訪問した隣人から、開園情報を恵美子が聞いていた。

タワー最上部からの眺望がとにかくいい。写真はそこから写したものだ。



屋我地島、多野岳はじめヤンバルの山々、本部半島の山々などが一望できる。羽地内海に小島が多いことは知っていたが、屋我地島の古宇利側にも小島が多いことにはじめて気付いた。

この立地と景観だから、古宇利に「沖縄版アダムとイブ」が生まれたという伝承も含めて、いくつもの話が神話的に登場するのが理解できよう。

でも、橋でつながり観光地化することで、この後どんな風になっていくのだろうか。

駐車場からは、無人電気自動車でタワー玄関まで上る。無人なので、不思議な感覚

入ると、貝の展示場がある。私がこれまで見たこの種の展示のなかでは、最高のものだ。名前を聞いたことはあるが、実物ははじめてというのものもある。ヤコウガイ、ゴホウラ・・・などが、これでもかこれでもかと並ぶ。我が家にあるタカラガイとかスイジガイとかシャコガイなどは、比べようもなく美しく大きい。宝石店のような印象。

入場者は、県外海外からの人ばかりという印象。平日のためもあるだろうか。帰りに立ち寄って話した地元の話だと、古宇利の人で入場した人はまだ多くないとのこと。観光地のたいていのところでは、案外地元の人には行かないものという印象さえある。5年ほどまえに最初に訪問した時、古宇利の一番高い遠見台に上ったが、そこの方が歴史的にも地元感覚でも重要だろう。

敷地にある建物や庭などの作り方は、観光客が喜びそうなスタイルだ。沖縄地元感覚とは少し異なる。これまた、観光スポットの多くに共通する。

経営は地元ではなく、本土資本だそう。地元の人々の雇用がなされているとのこと。こんな施設が村営だったら面白いのに、と思い、職員のかたに「村営ですか」と尋ねてしまった。「民間です」という答えが返ってきた。帰りに、地元の人々が主催する「龍乃宮館」でユンタクする。



多種多様なランが大量に並ぶ。
その中で、私のお気に入りを並べよう。



左の写真は、最優秀賞をとったもの。ここまで育てるのに20年かかるとの説明。なんとも不思議だ。

3年連続で沖縄国際洋蘭博覧会を見る 1 2014年02月08日





毎年、この時期、海洋博公園の熱帯ドリームセンターで開かれている。今年で28回目だそうだ。私たちは、3年連続で見に来た。2月5日が結婚記念日なので、そのお祝いと言うことで、来ている。

連続できても、まだ飽きない。変化があるし、それだけ圧倒的な素晴らしさがあるからだ。

中右は、入り口アーチだ。



ドリームセンターへのアプローチ周辺には、大量の花が飾られている。

会場の中に入ると、



ランのトンネルがある。昨年とは異なるディスプレイで、今年も美しい。

沖縄の自然を守り育てるマングローブEEクラブ

2014年01月25日

21日、うるま市の学童クラブ指導員のワークショップを終えた後、40年来の友人である平川夫妻を訪ねた。昼食をともにしながら歓談した。平川良栄さんは、コンピュータを使って「版画」作成にいそしんでおられる。沖展常連の高度な芸術表現をなさっておられる。

節子さんは、長年のマングローブを中心とする沖縄の自然を守り育て





心を広げてしまった。

る活動を、現在NPOマングローブEEクラブ代表として、ますます意気軒高として展開しておられる。泡瀬の洲崎や宮城島などを中心にして、小学生から高齢者までの超たくさんのボランティアとともに活動しておられる。他府県からも大学生など多くの方々の活動参加があるとのこと。

自宅を事務所にしておられるが、たくさんの活動グッズが所狭しと置かれている。

今後ますますのご活躍を祈念したい。

我が玉城中山河口に自生している7～8本のマングローブの幼木が定着するかどうか、思わず関

宮城島からみる太平洋と沖縄島

2013年08月20日

14日伊計島からの帰りに宮城島のヌチマース工場・売店に立ちよる。その敷地の展望台からの景観が凄い。

右写真は、ヤンバル方向。

下左は、南東方向。浜比嘉島が見える。



下右は、展望台のすぐ下の海。

ここに来るのは初めてだ。以前は、島の中央部の丘を突っ切る道路を通ったが、今では、東側の海岸沿いに立派な道路ができている。





元伊計小中学校風景 超かわいい門柱シーサー 2013年08月19日

イチハナリアートプロジェクトの中心会場である元伊計小中学校校舎は、できて10年ほどの立派な建物だ。教室を含め、建物内部施設もすごい。もったいない印象だ。今後豊かに活用されることを期待する。

校門には一対のシーサーがある。

右写真は、「伊計小学校」と書かれた門柱のうえに鎮座するシーサー。

左は、「伊計中学校」門柱のシーサー

教室から窓の外を見ると、伊計島はもちろん、宮城島そして太平洋が美しく見える。「カフェ伊計」といった印象だ。

校舎の隣の民家と畑風景を見るのもいい。 景観表彰に値する伊計小中学校風景だ。



イチハナリアートプロジェクト

2013年08月16日

14日、三世代家族7名で出かける。
立派な元伊計小中学校校舎を中心にたくさんの美術制作品が並ぶ。

まず目につくのは、102歳の長寿を全うした東江ツルさんのいくつもの大型人形だ。最大のも

は、上の写真のように校舎のひさしに座っている。
そして、元運動場の駐車場中央にも座っている
そして、教室展示のなかにも。



親しみやすい。親しみやすいのはツルさんだけでなく、作品の多くがそうだし、展示のありようそのものがそうだ。学校の教室だけでなく、今は住み手がない民家の庭にも展示されている。

下左の写真は、その一つで、寝転がっている人が日時計になっている。



齋木喜美子さんのお菓子で作った作品は、新聞にも掲載された。下右写真がそうだ。



こんな親しみやすさなので、小学生の孫たちも楽しんでい



た。

対応する係員も若々しく親切に対応してくれる。民家展示物を見に行く時も、クバ傘を貸してくれる。教室の中には、地元産品のお菓子、飲み物が販売され、カフェ風の教室もある。教室からの島風景や海風景などの景観が素晴らしく、「海辺と民家のカフェ」伊計小中学校と言った感じだ。

芋などで地元の人が作ったお菓子、そして芋そのものを安価で販売している。いくつも購入した。

この会場には、9月以降もいくつも予約・計画が入っているそうだ。こんな素晴らしい教室・景観なら、うまく運用すれば、一大拠点になるだろう。伊計島おこしを期待したい。

那覇市歴史博物館 2013年08月14日

存在は知っていたが、初めて入場。

10年前まで、那覇市松尾にしばしば滞在したが、その際、パレット久茂地にはよくでかけ、本を購入したり、那覇市民ギャラリーで鑑賞を楽しんだりしたが、そのころ、歴史博物館はまだできていなかった。

歴史博物館と言う名は、私には目新しく感じる。展示もその名の通りだ。著名な刀剣「千代金丸」が展示してあった。古いものだが、立派だ。

場所が、パレット久茂地4階と、大変便利なところだ。一度は訪問してみたいところだ。

私は、内外を問わず各地に旅する時、たいてい博物館に立ち寄る。その地の概要を知るうえで有用だ。その点で、南城市にまだないのが残念だ。



糸満漁民食堂 2013年08月11日

先日、二人で出掛ける。新聞情報をもとにして。

糸満の道路が大きく変わって、手間がかかった。帰りは直行。私の遅い運転でも、我が家から30分で行く。

石造り風のレストランの建物があか抜けして、きれいだ。漁民食堂と言う名とは大違い。

出てくる料理も、昔ながらの沖縄の漁民=庶民のものと言う感じではなく、フランス料理風なのだ。サービ



スも、そんな雰囲気だ。意外性さえ感じる。その意味では、面白い。カフェ風と言うか、創作料理風というか、経済的ゆとりのある都会人向きという感じでもある。観光客が喜びそう。そのうちガイドブックにも掲載されて、どっと押し寄せるようになるのだろう。

隣は、魚の店。お刺身を買って帰る。サンゴ石をもらう。

写真は、二人が注文した料理だ。

左は、土鍋入りの魚汁

右のネーミングは忘れたが、フランス料理風の沖縄魚料理



等身大人形「勝連のおばあ」 話しかけるのが好きな私 2013年08月05日

写真は、勝連城跡前の案内所に置かれた人形のおばあ。最初は、本物の人間と思ったが、近づいて人形だと気づいた。イチハナリアート・プロジェクトの一環として制作されたようだ。実に良くできている。

地元のおじさんが、「ウチナーグチで話しかけると、返事が返ってくるよ」と言うので、恵美子は必死になって、「ハイサイ」などと話せないウチナーグチで話しかける。すると、おじさんは『冗談だよ』と。

こんな会話は、実に楽しい。

「話しかける」で、最近の私は、こんな外出をす

ると、初対面の人に良く話しかけていることに気づく。

その日話しかけたことを思い出して並べよう。

- 1) 勝連城跡の「三の曲輪」の木陰で涼んでいる父子に、『気持よさそうね』
- 2) 写真撮影しているカップルに、シャッター押してあげましょう。
- 3) 城跡をめぐる三人グループに、「あなたたち高校生？ 大学生？」すると、「高校生に見られた」と喜ばれる。

4) 東南植物楽園の受付で、係の人とユンタク 「96歳以上無料って、本当」以下、2分ぐらい

5) イギリス王立植物園商品が飾られているショップの担当者に、「このデザインは素敵だが、どこかで見た記憶がする。他にどこにあるのかな。沖縄にはないだろうが、本土か欧米かどこかで。どこかわからない？」

新人職員がほとんどのここでは、答えは難しそう。

6) 我が家でも育てている植物だが、美しく咲いていたもの。通りかかった、今度はベテランらしき人に、デジカメ写真の花を見せながら尋ねる。「コストスです」とのこと。

7) 休憩所で、隣に座ったおばあさんと孫と知人らしき方々としばしユンタク。近くのレストラン情報ももらう。

8) コザのパークアベニューで食事。ここでも、たくさんユンタク。なんと、シルバーセンターが運営しており、シルバーの方々が働いている。「本当にシルバーなの」という感じの人が多。メニュー表が、絵手紙風の色紙に、ゴーヤチャンプルーとか書いてある。とても上手だとほめたら、「書いたのは私です」との答え。横の人が「この方、美術の先生していたんです。」

美味しく頂いた後、店に在る小物を見る。メンバーたちが作ったものだ。右写真のフクロウカップル人形を購入。



こんな具合だ。他にも何人か話しかけた。恵美子としか会話しない日が多い中、新鮮な出会いは楽しい。黙ってすれ違うのは好きではない。なぜか、声をかけたくなる。相手にしてみれば、「余計な節介」になることがあるかもしれない。でも、そんな雰囲気を感じる人には話さないことにしている。

勝連城跡から、360度の沖縄島・海を見渡す

2013年08月04日

7月30日に、勝連城跡の「一の曲輪」から撮影。

ここからの360度景観もすごい。



上左 平安座島宮城島方向



上右 石川から、恩納・金武へ

下左 沖縄市から、中城方向

下右 与那原・佐敷・知念方向。



雄大な気分に入る。アマワリの気分か

30年近くぶりの東南植物楽園訪問

2013年08月02日

7月30日、勝連城跡訪問のあと、東南植物楽園を訪問する。こうしたところが好きだった私たちは、30～40年前には、何度となく訪



問した。とくに、長男裕樹とともに、彼が一時退院中に訪問し、写真撮影したが、それがいまも我が家の仏壇にある。思い出の地なのだ。

しばし閉園していたが、最近、近所のユインチホテルを経営しているタピックが、ここを買い取り、再開したというニュースを耳にし、出掛けたというわけだ。

再開したばかりで、今後どのように充実していくかを期待をもって注目していきたい。いくつか書こう。

1) キジムナーフェスタでもらったチラシ持参で100円割引というのにひかれたのだが、当日もっていくのを忘れた。

2) 96歳以上無料と言うのが、そのチラシに書いてあった。シルバー割引は、通常60歳、65歳、70歳という区切りだが、96歳というのは初見だ。入園受け付けで聞くと、やはり96歳だという。これまでに一人該当者がおられたとのこと。

3) 以前と変わらない姿だった。再開間もないので、質素な感じもした。以前は10メートルぐらいの高さだったヤシの木には、20メートルぐらいになっているものが多い。だから、逆に日陰をつくってくれないこともある。

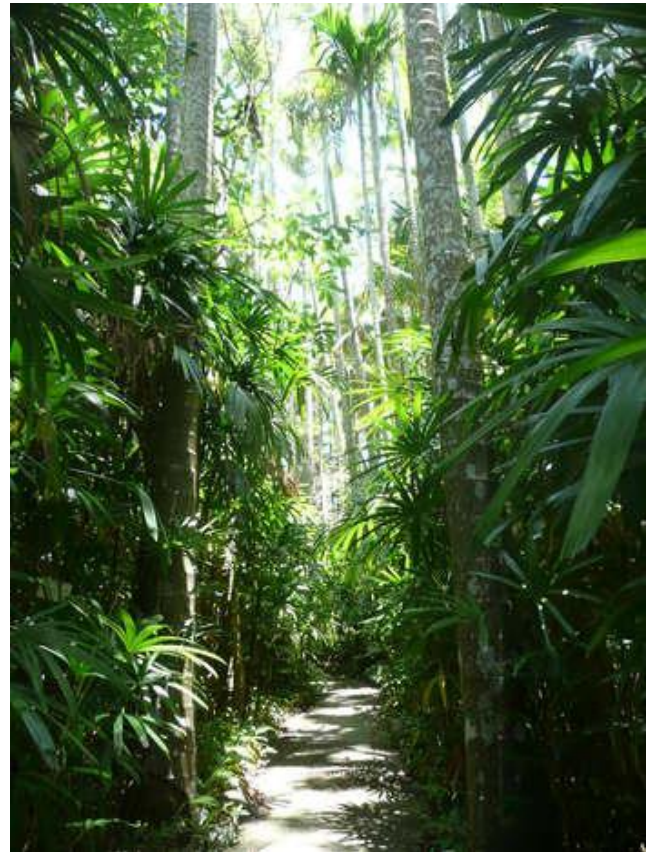


4) 広大な水上楽園には、ハスが一杯で、美しい花が咲いている。

5) 植物園は、整備中の個所も多いが、以前同様の森がある。

6) 中で食事しようと考えていたが、10月1日オープンとのことだ。

7) 受付でもらったガイドには、園にある121種の植物が紹介してあった。そのうち20数種は我が家にもある。我が家がミニ植物園になるには、この数倍ぐらい必要だろう。





産」群すべてを訪問しおえた。

七月終わりの恵美子の誕生日記念のお出かけで、この後、再開した東南植物楽園に赴いた。

右写真は、「一の曲輪」から「二の曲輪」の建物跡などを見る。遠くには浜比嘉島、平安座島などが見える。

勝連城跡訪問

2013年08月01日

7月30日、約30年ぶりに勝連城跡を訪問。以前はまだだった復元工事がかなり進んでいて、数百年前の壮大な勝連グスクをイメージできる。

一番高い「一の曲輪」に立つと、かなり遠方まで眺望できる。タマグスクや久高まで見える。軍事拠点として重要な位置がわかる。

入り口にある案内所には、発掘された鎧類が展示されている。当時の軍事状況を想像させる。

案内所には、八月三日からのイチハナリアートプロジェクトのちらしが置いてあった。知人も名を連ねていた。

ここを訪問して、ようやく一連の登録以後の「世界遺

